

11月28日、岐阜県加茂郡七宗町の神淵コミュニティセンター及び七宗国有林において、ニホンジカ食害防除対策の現地検討会を開催しました。

ニホンジカによる森林被害は国有林、民有林を問わず、顕著となっており、樹木の剥皮(はくひ)による品質低下や枯損、植栽木や下層植生の食害により、山地災害発生の危険性が増すなど、地域全体の森林が持つ公益的機能の発揮にも大きな影響を与えています。

こうした中、岐阜森林管理署では、防護柵の設置や、くくり罠による職員捕獲の実施など、ニホンジカ被害対策に積極的に取り組んでいます。

本検討会は、このような取組について、地域の林業関係者との情報共有や意見交換を行うことにより、岐阜県内でより効果的な対策を行うことを目的に、森林技術・支援センターと岐阜森林管理署が合同で開催し、本年度は、岐阜県及び市町村の担当者、資材メーカー等から35名が参加しました。午前は、神淵コミュニティセンターで、岐阜県森林研究所の片桐専門研究員による、「ニホンジカ対策の現状と課題」について講義が行われ、ニホンジカによる森林被害の状況、主な食害防除対策である忌避剤(きひざい)散布、ツリーシェルター、



岐阜県森林研究所 片桐専門研究員の講義

単木保護資材を視察するとともに、参加者間で意見交換を行いました。

また「小林式誘引捕獲法」の実演やクマの錯誤捕獲防止用の改良わなが紹介され、参加者の皆さんも、開発者から説明を受けながら、設置方法等について、熱心に学んでいました。

ニホンジカ被害対策では、防護(守りの対策)と捕獲(攻めの対策)の両方を効果的に組み合わせる取り組みが必要であり、今後も検討会等を通じて民国の関係者が情報を共有し、一体となった対策を着実に推進していくことが重要だと考えています。



小林式誘引捕獲法の紹介と実演

シカ柵の特徴や効果のほか、ツリーシェルターの種類の違いによる植栽木の成長に及ぼす影響など、被害対策に取り組むうえで大変参考となる内容でした。

続いて、中部森林管理局野生鳥獣管理指導官から、「中部森林管理局の取組について」と題して「小林式誘引捕獲法」の紹介や、職員捕獲や委託による捕獲、ブロックディフェンスとくくり罠捕獲について説明を行いました。

午後からは、七宗国有林の七宗町上麻生地区森林共同施業団地内にある「獣害対策展示エリア」に展示している箱罠(はこわな)や囲い罠(かこいわな)、防護柵、



センサー付き囲い罠「みはるちゃん」の説明